アジアNo.1に返り咲く為に



（財）日本ハンドボール協会強化本部長（常務理事）　西窪 勝広

「敗軍の将、兵を語らず」日本の伝統であり美徳なのかもしれませんが、過去の反省を踏まえ監督に限らず強化部首脳、チームスタッフ等、何が良くて何が悪かったかを総括することが大切です。様々な立場の方々の共通理解のうえで、広く伝えていく強化体制が不可欠であり、幅広い層から意見を求めることで明日に向けての一体感もより強まると感じています。

昨今は分析班の充実も図られてきました。今までの諸外国との対戦データなどをリセットすること無く、良い面、悪い面共々、しっかりと検証を加え、蒲生前強化本部長の築き上げたことを引き継ぎ、新しい強化体制とチームを構築していくことが私の大きな役割と認識しております。

アジア№１に返り咲く為には、各カテゴリーで韓国に勝つかそれに等しい成績を収めていかないと、日本代表チームだけで韓国との差を埋めることは厳しいと感じます。

その為にも、NTSで発掘された選手を各カテゴリーで育成していく中で、基本技術・戦略を徹底教育しつつ、ナショナルトレーニングセンターを有効に活用します。とりわけJHAジュニアアカデミーにおいて日本を代表するエリート教育を実施し個人技能、能力のレベルアップを図り、アジアで戦えるスキル教育にも取り組んでいきます。

ハンドボール関係者に強化策の情報を共有して頂く為に小、中、高、大学との連携を図り、NTS一貫指導体制での選手発掘、育成に再注力し、JHAジュニアアカデミーに結びつける体制を構築してまいります。

指導者育成も大きな重点項目であり、JOCコーチアカデミーと連携を図り日本協会独自の指導者育成や、審判部・技術委員会とも情報を共有し強化に努める必要性を痛感しています。

単純に比較することは出来ませんが「３年後の2011年にオリンピック予選に勝ちロンドンに行く」という使命を皆様の立場に置き換えれば、学校、会社を挙げての一大プロジェクトと捉えています。

重要ポストに就いて、其のプロジェクトを推進していく立場が私の役割と責任の大きさを痛感しておりますが、皆様のご協力が無ければこのプロジェクトは成功しないと思います。

関係各位のお力とお知恵を頂きながら、アジア№１に返り咲くように精進してまいります。

チャレンジ！おおいた国体

第63回 国民体育大会 ハンドボール競技





2点とも　写真提供：スポーツ・イベント社

【成績】

▼成年男子		▼少年男子	
優勝	埼玉県	優勝	長崎県
2位	愛知県	2位	茨城県
3位	佐賀県	3位	大分県
4位	広島県	4位	熊本県
5位	三重県・京都府 岩手県・群馬県	5位	福島県・福井県 神奈川県・秋田県

▼成年女子		▼少年女子	
優勝	石川県	優勝	京都府
2位	茨城県	2位	大阪府
3位	鹿児島県	3位	大分県
4位	広島県	4位	東京都
5位	宮城県・大阪府 兵庫県・山口県	5位	岐阜県・神奈川県 福岡県・愛知県

総評　大会を振り返って

大分県ハンドボール協会理事長　佐藤喜一

「ここから未来へ 新たな一歩」をスローガンのもとチャレンジ！おおいた国体は10月3日（金）～7日（火）の期間、大分市内5会場で熱戦が繰り広げられました。

本大会は、国体改革元年と位置づけられ、成年男子（16チーム）成年女子（19チーム）・少年男子（19チーム）・女子（16チーム）総数70チーム（選手840名）での開催となりました。

前年度開催の秋田県は80チーム（選手1,040名）で、チーム数は10チーム、選手数に至っては200名減少の大会規模になりました。

国体開催準備については、3年前から大分市国体実行委員会を中心に会場の選定や協会の国体担当者の決定をして、定期的に会議を重ね準備してまいりました。一方選手強化対策については県国体事務局主導の補助金を有効活用しながら強化候補選手選定をして、選手育成強化をしてまいりました。また、並行して審判員や大会役員・生徒補助員も講習会や県内各種大会でも本番を想定して養成しながら、昨年度はリハーサル大会としてジャパンオープン開催と九州国体ブロック予選を連続して開催して実績を積み上げました。

①運営面

競技役員は、過去に高校等のハンドボールを経験した方に勤務等を調整してもらい協力要請して、また現在、中・高校生の保護者を中心とした方々にも協力をお願し、中・高校生のハンドボール部員を合わせて約450名を編成して競技運営に携わってもらっての大会運営でした。

②強化面

本県ハンドボールは、今回の国体に向け他県に先駆け約15年前から短・中・長期の三段階方式で計画を立て、ジュニア強化対策事業に取り組み推進してまいりました。特に昨年の秋田国体には三部門出場するなど成果が現れ、大分国体に向け大いに弾みとなりました。

昭和41年に開催しました大分国体以来、当時の選手であった指導者が残してくれた小学生への普及が実り、その中で有望選手や将来性のある逸材を発掘し強化する中で、特に世界に通じる宮﨑大輔選手を筆頭に、男子は末松・野村・久保選手、女子は安心院・藤間・工藤・伊藤・増田選手の人材が

各実業団や大学に県出身選手として育った選手が人的財産となって活躍してくれたことは、各指導者に感謝するとともに協会の誇りでもあります。

強化対策として、これらの人材をふるさと選手制度を活用して地元国体選手として一段と成長した姿を披露できると大いに期待を寄せていましたが、残念ながら企業・大学の事情により補強も叶わず目算通りにできなかったことは誠に残念でした。

③成績面

成年男女については地元在住選手と大学生を中心に手作りのチーム編成をして、１回戦突破を目指しましたが、初戦から日本リーグに参戦している強豪チームとの対戦となり、善戦はしたものの、後半は体力・練習量に勝るリーグ主体の相手チームに最後は押し切られ１回戦で敗退しました。

少年男女は、埼玉高校総体で男女共に３位入賞を果たした選手を中心にチーム編成をして予想通りの活躍をしてくれましたので種目別総合優勝をと期待しましたが、残念ながら一歩及ばず総合２位で大会を終了しました。

④大会の話題として

１．成年男子は、１回戦を突破して埼玉県チーム所属（大分県出身のスーパースター、宮崎大輔）との対戦で、一段と大会を盛り上げようと意気込み練習をしてきましたが、その夢を果たせなかったことは残念でした。末松・宮﨑の両選手の地元への気持ちにより、サイン会してくれたためにファンが殺到して、実行委員会も慌てて警備員を増やすフィーバーぶりでした。また、宮﨑大輔選手の出場する試合では、体育館が満席となり彼の人気の高さを象徴する大会となり、４日間は常に超満員で試合が終わればサインを求めて長蛇の列ができました。

２．成年女子の試合では、茨城県（筑波大学主体）が、ジャパンオープン１位の香川県（香川銀行）を破り、次に熊本県（オムロン）を破り、準決勝では広島県（メイプルレッズ）を破る筑波旋風で、大学単独の強さをまざまざと見せ付けら



れた大会でもありました。

⑤今後の課題

本県ハンドボール協会は、昭和41年国体開催以来小学生の普及を中心に底辺拡大とジュニア事業を重点目標に、普及・発掘・逸材の育成と強化をしてまいり、その成果としては日本ハンドボール界で活躍できる人材を育てられたことは誇りに思っています。

しかし、国体改革により「ふるさと制度」「大学単独編成」「シード権制」「抽選方法」など制度改善されたように見えますが、まったくリーグ参戦チーム・大学チームを持たない地方開催県には、この制度・方法には率直に疑問を感じています。１各地区国体ブロック予選でも同じでしょうが、地方の選手は自らの個人経費負担で登録し、練習場所を探しながら余暇の時間も割き参加する悪条件の中で、リーグ参戦チームや大学単独との対戦で勝利することは至難の技であることは明白です。そこで、今から国体開催する都府県の地域での普及・発展ためにも「開催県シード権」や「ストップ権」などの、組合せ抽選について都道府県協会の意見・要望を集約されて日本ハンドボール協会独自の方式を検討されますようにお願いします。

本年度国体開催県として、感じ思ったことを直裁に申し述べました。

最後になりましたが、紙面をお借りして日本協会を始め、ご指導、ご協力戴きました関係各位に厚くお礼申し上げますと共に、来年度開催県である新潟県のご成功をお祈りいたします。

優勝チームのコメント

成年男子：埼玉県

国体を振り返って

埼玉県成年男子主将　猪妻 正活



大分県で行なわれたチャレンジおおいた国体、第63回国民体育大会ハンドボール競技で見事優勝することができました。これも皆さんの支えがあったからこそ優勝できたと思います。

私たち埼玉県チームは昨年まで4連覇している事もあり、今回、5連覇のかかった大会でプレッシャーもありましたがチーム一丸となり、準決勝では、苦しい試合ではありましたがなんとか1点差で勝利し決勝まで勝ち上がる事ができました。

決勝戦の相手は宿敵大同特殊鋼単独チームの愛知県で立ち上がりからリードを奪われる苦しい試合展開になりました。埼玉県チームも集中力を切らすことなく食らいつき愛知県チーム4点リード残り10分から怒涛の9連続得点で逆転勝利をおさめ見事5連覇を成し遂げることが出来ました。

大分県は、チームメイトで同期の宮﨑大輔選手の地元でもあり絶対に優勝するという、強い気持ちで今大会に臨みました。埼玉県チームのキャプテンでもあり、大輔の友人としてとてつもないプレッシャーでしたが優勝できてほっとしています。

最後になりましたが、今大会の運営にあたり御尽力いただきました大会関係者の皆様、地域の皆様のご声援があったからこそ最高のプレーが出来たと思います。皆様、本当に有り難うございました。

成年女子：石川県

大分国体を振り返って

石川県成年女子主将　上町 史織


写真提供：スポーツ・イベント社

今回、大分国体で優勝することができ大変うれしく思います。

これも、監督・コーチをはじめ、私たちがハンドボールに集中して取り組める環境を作ってくださっているみなさん、またたくさんのあたたかい応援をしてくださる皆様のおかげだとおもっています。感謝の気持ちでいっぱいです。

この場をお借りして心より感謝申し上げます。

今大会の優勝は、実業団大会に続き、今期二つ目の優勝ということで喜びも倍増でした。

決勝戦は、茨城県ということで大学生が相手でしたが、決して気の抜けない戦いでした。私たちの試合展開にはまだまだ波があり、今点を取りたい・守りたいという場面でのミスにより相手にチャンスをあたえることもありましたが、コートにいる選手が精一杯プレーし、交代して入ってきた選手が持ち味を出しいいプレーをしてチームを盛り上げてくれる。一人一人が、試合に入り込み集中し、追いかける展開のなかでも、粘り強くプレーできたことがこの結果につながったと思います。

今大会での課題をリーグ戦・全日本総合でいかしてさらにいいチームをめざしがんばっていきたいと思いますので、今後も変わらぬご声援よろしくお願いします。

優勝チームのコメント

少年男子：長崎県

国体を終えて

長崎県選抜チームコーチ　柴原　翼

第61回国民体育大会チャレンジ！おおいたハンドボール競技で優勝することができ、とても嬉しく思っています。

本年度のチームは長崎日大、瓊浦６人ずつの選抜チームでシステムや試合へのもっていき方、ゲームの運び方などことなる２チームですから一つにまとまるのは容易ではなかった。

このチームの特徴としては、レベルの高いメンバーが揃っていて、長崎日大のパワフルであたりの強いディフェンスに瓊浦の守護神、GK 糟谷周穂とが融合したチームで、特に一番の強みは、ライバル校同士という反面、選手同士とても仲が良く常に試合などで話し合い、要求し合い悪い所を修正していけたところが強みとなりました。

今大会初戦の２回戦、29 － 27で何とか勝つことが出来たが、大阪に最後まで粘られました。やはり、攻守両面での連係ミスが多く不安が残るスタートとなってしまいましたが、徐々にチームがまとまり、準々決勝、準決勝と勝ち進み決勝を迎えることができました。

決勝戦では前半は長崎日大、後半は瓊浦メンバーが主体でゴールネットを揺らしました。

ディフェンスでも茨城の持ち味でもある速攻を戻りの速さ、あたりの強さで封じ込めた。35 － 18と大差をつけることができ、最後にチーム一丸となってまとまり、チーム長崎で有終の美を飾ることが出来ました。

今大会多くのことをご指導してくださった長崎県ハンドボール関係者さま、長崎県の皆さまや保護者の方々に心より感謝致します。そして、自分自身とても良い経験をさせてもらい今後につなげていきたいと思います。最後に選手のみなさん。ありがとう。お疲れ様。

少年女子：京都府

国体を終えて

京都府少年女子　乾　彩友美

平成20年度第63回国民体育大会に出場し、優勝させていただきました。このような結果が残すことができたのも、今大会の運営にあたり御尽力いただきました大会関係者の皆様、地域の皆様のおかげであり、また京都府に御支援・御声援を賜りました京都府の役員の皆様、学校関係者の皆様、保護者の皆様をはじめ数多くの方々の温かいお心遣いがあったからです。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

私たちは、選抜大会、インターハイと二冠を達成し、昨年の先輩方が残してくださった結果に続き、２年連続三冠という結果がかかっていた試合でした。一戦一戦私たちのプレーをしようと考えていましたが、立ち上がりでのミスが多く、なかなか切りかえることができなかったりと課題は山積みでした。そして、今大会では、学校代表としてだけでなく、京都府の代表として他県と戦っているというプレッシャーもありました。しかし、京都府の皆様からの応援の声が力となり、自信を持ってコートに立ち、プレーをすることができました。

試合中に一人の選手がけがをしてしまうなどのアクシデントもありましたが、それによってメンバー一人ひとりが『自分がやらなければ』という強い気持ちがさらにチーム力を高めることができたと思います。

目標を持ち、日々の練習の中で、自分自身が何を伸ばしていきたいのか、何が一番足りないものかを考え、一日を振り返り、また次の練習で意識を持って練習をすることで力はつくものだと思いました。これからも、日々練習に取り組んでいきます。ありがとうございました。

戦　評

【成年男子】

▼3位決定戦

佐賀県　25（13－12、12－12）24　広島県

〔戦評〕佐賀は8番・泉原のループシュートなどでリードするが、広島は早いパスワークで佐賀の4－2ディフェンスに対しゴールチャンスをつくり、互角の試合が続いた。佐賀は速攻などで加点し、13対12、1点リードで折り返した。

後半、佐賀の速攻、広島の堅守、パスカットなどで一進一退。19分過ぎには広島は速攻、ポストで22対19とリードするが、佐賀はゴールキーパーを7番・藤山に交代して攻撃参加するなど両チーム必死の攻防に23分過ぎ同点となる。佐賀は24分過ぎ6番・村上が逆転の速攻を決めて再びリードし逃げ切って3位に輝いた。白熱した好ゲームであった。

▼決勝戦

埼玉県　28（12－13、16－11）24　愛知県

〔戦評〕成年男子決勝戦は、大分出身の日本のエース、埼玉県代表の宮﨑と同じく大分県出身の愛知県代表・末松との対戦で会場は満員の大盛況。立ち上がり、愛知の7番・地引、9番・武田、11番・千々波らの3連続、一方、埼玉も宮﨑らの速攻で応戦、両チームともに3－2－1ディフェンスとキーパーの好セーブで一進一退の攻防が続く。前半は13対12と愛知が1点リードして折り返す。

後半も立ち上がり両チームとも点の取り合い。16分過ぎ、愛知・末松らの速攻で3連続得点するが、20分過ぎに埼玉の集中した3－2－1ディフェンスが機能するとともにキーパーの好セーブで9連続得点で逆転し、28対24で埼玉が5連覇を達成した。





2点とも　写真提供：スポーツ・イベント社

【成年女子】

▼3位決定戦

鹿児島県　31（17－9、14－8）17　広島県

〔戦評〕立ち上がり鹿児島が9番・高栖のポストシュートで3点連取。広島も11番・坂口のサイドシュートで追い上げる。10分過ぎ、鹿児島は2番・樋口が7mTをはずしたが、そこから5連続得点。広島は18分からリズムを戻し、速攻で3連続得点で3点差まで詰めたが、その後ゴールチャンスを鹿児島GK12番・中島に阻まれ、連続得点につながらない。鹿児島はサイド、ロング、カットインと多彩な攻めで得点を重ねて前半を折り返した。

後半も鹿児島の勢いは止まらず、広島のミスをついて得点をあげていく。広島は中盤ややリズムを取り戻したが7mTを連続で阻止されるなど、単調なシュートで立て直しを図れないままゲームを終えた。

▼決勝戦

石川県　31（14－16、17－13）29　茨城県

〔戦評〕開始1分、石川の4番・上町の得点でスタートした。両チーム互角の立ち上がりで5分で2対2。5分30秒、茨城の6番・石野の退場から石川が8番・小野澤の連続得点、8分には4番・上町、11番・武井と4連続得点し、15分には9対7と石川がリードする。対する茨城は、17分、2番・高橋の退場がありながら2得点、25分には13対13の同点とする。25分26秒、茨城は5番・黒木の得点で勝ち越すと29分には黒木のパスカットからの速攻で最後は3番・石立が決め、前半を16対14と茨城が2点をリードして終了した。

後半、リードした茨城が20秒、1分と連続得点し4点差としたが、石川も4分20秒、4番・上町が7mTで得点するなど10分には21対19と2点差とする。ここから石川は、10分40秒、10番・野路、11番・武井、8番・小野澤



写真提供：スポーツ・イベント社

と3連続得点し逆転。さらに20分40秒、4番・上町から25分の10番・野路の得点まで3連続得点して30対26と4点差とする。茨城も5番・黒木の得点などで追うも31対29で石川が優勝を飾った。

【少年男子】

▼3位決定戦

大分県　34（15－12、19－10）22　熊本県

〔戦評〕両チーム素早い攻守の切替でスピードあふれるゲームで一進一退。19分過ぎ、大分はゴールキーパー・大鶴のファインセーブ、5番・伊東の速攻などで11対6とリード。熊本も大分の退場の間に速攻や6番・松本、2番・野田のゴールで23分過ぎ11対12と1点差に追い上げる。大分は5番・大鶴にマンツーマンディフェンスをつけられると7番・真藤のカットインなどで15対12で前半を終わる。

後半10分過ぎ、大分のディフェンスが堅く、ゴールキーパー・前田のファインセーブ、7番・真藤のフェイントなどで連続ゴールして点差を広げた。熊本は2番・野田の豪快なロングや7番・梅木のサイドで追いかけたが届かなかった。大分は終盤、11番・種崎の連続ゴール、タイムアップ直前、4番・高木のポストプレイで突き放し、3位に輝いた。

▼決勝戦

長崎県　35（16－10、19－8）18　茨城県

〔戦評〕長崎のスローオフでゲーム開始。長崎は11番・濱口のロングシュート、茨城は3番・横田のシュートで始まるが、長崎は6連続得点でリズムに乗る。一方茨城もクィックスタート、速攻、ロングとシュートに行くが、長崎の好ディフェンスと12番キーパー糟谷の好セーブで得点に結びつかず、前半16対10で長崎のリードで終了。

後半立ち上がりから両チーム一進一退の攻防でゲームが進む。18分過ぎから長崎が8連続得点で茨城を突き放す。長崎の好デイフェンス、キーパーの好セーブが光ったゲームで、35対18で長崎が優勝を飾った。



2点とも　写真提供：スポーツ・イベント社

【少年女子】

▼3位決定戦

大分県　29（17－13、12－12）25　東京都

〔戦評〕両チーム合わせ30得点で点の取り合いとなるハイペースなゲーム展開での前半となった。東京は2番・大場、大分は8番・河村のサイドシュートが冴え、一進一退で進行したが、18分過ぎ、退場者が出たものの4連続得点した大分がリードした。東京は25分、GK1番・前田が7mTを連続阻止し、流れを掴むかに思われたが、退場者を出し、大分が17対13と4点リードで折り返す。

後半、東京の4番・千葉の得点でスタートした。東京は攻撃リズムが噛み合わず、大分の速い攻撃に押される。中盤、東京は5番・横山、10番・中村の得点で追い上げを見せるが、終盤、大分GK1番・安達が好セーブでチームを締め、地元の声援を受けた大分が勝負を制した。

▼決勝戦

京都府　23（11－6、12－11）17　大阪府

〔戦評〕開始1分20秒、京都の9番・乾のロングシュートが決勝戦初得点。両チームとも慎重な展開で次の得点が6分、大阪3番・大門の7mTの得点であった。その後、大阪が7番・平岡、11番・水田のロングシュートなどで得点、10分には4対2と大阪リードの展開。しかし11分、6番・角南、12分、9番・乾の連続得点で同点とした京都が、18分から28分まで得点の止まった大阪に対し6連続得点して前半を11対6と5点をリードして終了。


写真提供：スポーツ・イベント社

後半開始より大阪も反撃に出る。ディフェンスを高くし、20秒・平岡、1分・高山、6分・梁元の得点で6分には11対12と1点差まで追い上げた。しかし6分20秒、京都・乾のカットインからの得点から連続得点、17分の高山の得点まで11分間得点のなかった大阪に対して15対12とリードした。京都は23分の得点から26分、この試合11点目となる9番・乾の7mTの得点まで4連続得点をあげて23対15と点差を広げた。大阪も後半だけで7得点した5番・高山の頑張りもあったが及ばず、23対17で京都が2年連続優勝を飾った。

熱い思いを「忘れない」

読売新聞　千葉直樹



〝悔しさ着て『忘れない』〟――。ちょうど1年前、2007年11月28日の夕刊にこんな見出しの記事を書いた。その年9月の五輪アジア予選（愛知県豊田市）で北京五輪への出場権を逃した男子日本代表の選手たちが、その悔しさや4年後のロンドン五輪に向けた思いを込めた「忘れないTシャツ」を作ったという話だ。「課題を整理し、ロンドンに向け、次の世代にメッセージを伝えたい」。再出発への強い意欲をにじませた中川善雄選手（大崎電気）と話をしていた時、そのわずか3週間後にはじけることになる、五輪再予選の大騒動を予測することができただろうか。

12月17日の国際ハンドボール連盟（IHF）理事会での、五輪予選やり直し決定を受け、今年1月の予選には、雑誌やテレビ局を含めて113社、435人ものメディアが殺到した。当日に代々木第1体育館で、MC（司会者）をしていたのが希野秀樹さんだ。元全日本ジュニア代表で、21歳で腰を痛めて現役を引退後は、ミュージシャンとしての道を歩み、今年4月には自ら作詞作曲を手がけた日本協会公認のハンドボール応援歌「ありがとう」が発売された。実は希野さんはジュニア代表として世界と戦っていた10数年前、すでに「中東の笛」の洗礼を受けていた。それだけに、こうした理由でハンドボールが有名になったことには正直、複雑な思いもあったが、会場を埋めた1万人の観客を目の前にした時には、感激で胸がいっぱいになったという。

だが？　祭り？　の後は寂しいものだ。やり直し予選と最終予選で五輪出場権を逃した日本。世の中が北京五輪開幕のカウントダウンに入った7月下旬に男子代表がブラジル代表を招いた国際大会「ジャパンカップ」（熊本県山鹿市）を伝えた在京の新聞各紙は、ほぼ記録だけの扱い。世が世なら北京五輪の壮行試合になっていた大会も、小紙では短信扱いのわずか5行だけだった。

ロンドン支局に駐在していた2005年1月、アフリカのチュニジアで開かれた男子世界選手権を取材した。4大会ぶりに世界選手権に出場した日本は予選リーグで敗退したが、日本と同組のクロアチア、優勝したスペインなど世界の強豪国の印象は鮮烈だった。身長2メートルの選手がいとも簡単に速攻を決め、相手の虚を突くスピンシュートが鮮やかにゴールに転がり込む。攻撃のタイミングが同じなのに、シュートか、アシストか、次のプレーの予測ができない。体格やパワーだけではない。これが世界だと実感した。

その世界を奪い返すため、日本協会は新しい代表の強化体制を整えつつある。五輪出場に向けた男女のエリート選手養成を担う、ジュニア・アカデミーも10月に開講した。シュート力、フィジカル面、スピードをコントロールする能力など、国際大会に臨んだ日本には毎回のように同じ課題が挙げられるというが、そうした強化と並行して、日本代表の選手たちには、肌で感じた世界の壁や、韓国とのやり直し予選の異様な興奮、熱気から感じたものを皆で共有し、若い世代にも語り継いでもらいたいと思う。日本代表のエース、宮崎大輔選手（大崎電気）は「世界の中から、日本人とは違う動きなど、新しいものをどんどん取り入れていくこと。後に続く選手たちに、感じたことを行動で示したい。今季も日本リーグなどの試合にはたくさんの人が見に来てくれるし、ハンドボールへの注目は冷めていない」と雪辱を誓う。この1年間に蓄積された経験は、日本ハンドボール界にとっての貴重な財産だ。世界に出るためにはまず打倒韓国。近くて遠いアジアの鬼門だが、その目標に向けて財産を大きく増やしてもらいたい。

男子では宮崎に続く期待の若手が出てきた。世界最終予選で新たに代表入りし、アルジェリア戦で6得点を挙げた23歳の高智海吏（トヨタ車体）は大型のサウスポー。高校2年生までバスケットボールをやっていたという変わり種だがディフェンスの間合いが良く、フィジカルも強い。宮崎は「パワーがあって前を狙える。味方を引きつけるプレーができる」、酒巻監督も「ロンドンの核の一人に」とその素質を高く買う。女子は、世界経験の少なさからか、やり直し予選では選手の表情に明らかに堅さが見て取れ、それが日韓戦の13点という大差になって表れた。五輪最終予選で日本の最多得点を挙げた藤井紫緒（オムロン）を筆頭に、元気の良い若手の、物怖じしないプレーにこれからも期待したい。

会社の机の引き出しにしまってある「忘れないTシャツ」を引っ張り出してみた。青いシャツに白字でプリントされている「夢」「誇り」「悔しさ」「1点の重み」などの言葉。夢のように過ぎ去った騒動を経て、そのシャツには、日本の選手たちの、より多くのメッセージが書き加えられたはずだと信じている。そしてメディアに携わる私たちも、あのとき味わった熱い思いを忘れないことを肝に銘じたい。

呼吸する建築







Swindow ●スウィンドウ
わずかな風圧も捉えて自然に開閉し、室内外の温度差で効率の良い換気が行えるバランス式逆流防止窓。



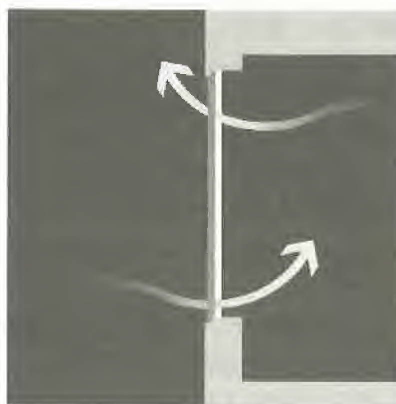




Wincon ●ウィンコン
内蔵の調節弁により、風の強弱に影響を受けにくく、定風量で換気が行えるヨコ型定風量換気スリット。







Cavcon ●キャブコン
内蔵の調節弁により、強風時でも一定の風量で換気ができ、無風時でも内外の温度差による重力換気が行えるタテ型定風量換気スリット。

NAV WINDOW 21

「呼吸する建築」。それは人が呼吸をするように
建築が自然に空気を取り入れ、建物内部の空気を新鮮に保ち
不要なものを排出するシステムを持つことです。
自然換気システム＝NAV WINDOW 21は
これまでの建築の機械空調と共存し
建物を取り囲む風を読み、建物内に風の道を作りそれを状況の変化に
あわせて制御する画期的な換気システムです。

三協立山アルミ株式会社
東京本社／〒164-8503 東京都中野区中央1-38-1
住友中野坂上ビル20F〈環境商品部〉 TEL (03) 5348-0367
インターネットホームページ http://buildingsash.net/

第1回 アジア ビーチゲームズ

主　　催：アジアオリンピック評議会（OCA）
大会期間：2008年10月18日（土）－25日（土）
開 催 地：インドネシア共和国・バリ島
最終順位：【男子】優勝・パキスタン、2位・クウェート、3位・タイ、4位・カタール、5位・ヨルダン、6位・オマーン、7位・日本、8位・インドネシア
【女子】優勝・中国、2位・タイ、3位・チャイニーズタイペイ、4位・インド、5位・ベトナム、6位・日本、7位・ヨルダン、8位・インドネシア、9位・ホンコンチャイナ

日本は、男子7位、女子6位に終わる

第1回アジアビーチゲームズ（2008／バリ）に参加して

日本代表選手団団長　**本間 誠章**

アジアオリンピック評議会主催の第1回アジアビーチゲームズが10月18日より25日までインドネシア共和国バリにて開催され、日本より9種目の競技団体が参加することになり、ビーチハンドボールも参加させてもらうことになった。選手の選考締め切りが3月25日、しかし、兵庫県で3月30・31日開催の全日本ビーチハンドボール選手権大会の結果も参考にと考え、本決定を31日とし、最終的に男子13名・女子9名の選手を選出した。

男女ともに約1ケ月の練習を行い、女子チームは男子チームの1日前に出発、17日午前1時にホテルへ到着した。

17日午前中、試合会場を視察かたがた練習が出来たらと思い会場へ向かった。博報堂の方に交渉を依頼していただきコートが使用できたのは幸いであった。しかし暑い、日本の猛暑と同じ、湿度も高い、選手のコンデションの取り方は大変な状況と感じた。13時にホテルに帰り着がえてテクニカルミーティングへ出席して驚いた。試合日程変更で19日試合の予定の男子第1試合が18日10時からとなっていた。連絡しても仕方がない、1分1秒でも早く到着することを祈るのみとなったが、男子の到着は18日午前2時であった。

残酷ではあったが朝食7時、8時出発を指示して各部屋に行かせる。

18日開会式前の試合で、善戦はしたが勝運我にあらず、残念な試合結果を胸に夜の開会式に参加する。

今回ビーチハンドボールに参加した国は13カ国、内、男女出場は4カ国ではあるが、アジア地域で参加可能な国はまだまだあると思いますので2001年に秋田で行った大会の時と比べこの普及率は大変な進展であると思われます。

試合についてはすでに報告されたとおりの結果でありますが、選手諸君はそれなりによくやってくれたことに感謝しております。アジア地域の各国が今ビーチスポーツにこれほどの力を入れているとは思わなかったし、特に、ビーチハンドボールに対しては、ヨーロッパよりコーチを呼んだり、国の政策での強化、年間スケジュールの強化練習等行っており、参加国のほとんどがこの大会を目標に2年ほど前から強化していることがわかった。

2年に1度の日程で行われるというOCA主催のアジアビーチゲームズは、今後よりレベルの高いすばらしい大会に発展することと思い、今回の大会に参加させていただいたことを感謝いたします。

※ルールの変更

○メンバーチェンジの範囲の変更

コート内よりベンチサイドへ出るとき、相手ゴールエリアサイドより出ることが出来なかったが、これを良しとする。

○2点シュートについて

ゲーム攻撃中スカイパスを連続2回以上続けた最後のシュートが普通のシュートであってもこれを2点とする。（スカイパス2回連続の技術を認める）

○即レッドカードのプレー

シュートに飛び込んでくるプレーヤーに対して、そのプレーヤーに向かって飛び出してゆくキーパー行為は即レッドカードとする。飛び込むプレーヤーに対して、事前に前位置にポジションを取り、垂直にジャンプする行為はその限りではない。







■試合結果・戦評

【男子】

▼予選Ａ組

日　本　0（8－13、8－11）2　カタール

［戦評］1st立ち上がりはセンター藤井の２ポイントシュートが決まり、一進一退の攻防。老沼を中心とする激しいチェックでディフェンスも必死に相手の得点を防ぐ。しかし、体格を生かしたカタールの攻撃に徐々に点差を広げられ、８対13でセットを落とす。2ndも文平の体を張ったトップディフェンスで失点を抑えるが、カタールの高いディフェンス陣の前に得点を重ねることができず、結果、８対11でセットを落とし、０－２で敗戦となる。

日　本　0（12－18、13－17）2　オマーン

［戦評］体格に劣る日本勢は立ち上がり先制されるも、キーパーシュートや木村、高橋の捨て身のピルエットシュートで応戦し喰らいつく。しかし、小さなミスから点差を広げられ、12対18で1stを落とす。2nd、再度作戦を徹底し、気持ちを切り替え、安藤らの必死のディフェンスで失点を抑え、中盤までシーソーゲームが続く。終盤に入り、大野のクイックシュートや相手の退場などチャンスが来るが、２点シュートに結びつかすことができず、最後は着実に点を重ねたオマーンの前に13対17で2ndも落としてしまい、０－２で敗戦となる。

日　本　0（10－13、15－19）2　タ　イ

［戦評］スピードのあるタイオフェンスに対し、日本はキーパーへのマークを強め、体を張ったディフェンスで失点を最小限に抑える。後半は一進一退の攻防が続くがラスト２分で、不可解な不正交代の判定で日本は退場者を出したことで終盤に流れを逃し、10対13で1stを落とす。2nd、文平の決死のカットインや樋口の攻守で何とかくらいつくが、またしても最後に２点シュートで突き放され、15対19で2ndを落とし、０－２で敗戦、24日の７位８位決定戦に向かうこととなった。

▼７・８位順位決定戦

日　本　2（16－14、13－15、7－6）1　インドネシア

［戦評］1st、立ち上がりは藤井の１対１からの２ポイントシュートや高橋、木村のピルエットが決まり、有利な展開で進む。キーパー小松の好セーブもあり、1stは16対14で今大会初の１セットを先取する。2nd、高いジャンプ力を生かしたインドネシアの執拗なポストへのパスに苦しみながらも、終盤まで同点の膠着状態が続く。日本は着実に点を重ねるため、１ポイントシュートに切り替えるが、ゴールポストに嫌われ、2ndを落としてしまい、ショットアウトにもつれ込む。ショットアウトでは、日本は後攻になり、小松がパスカットに成功したこともあって、６－６のまま、日本最後の選手、ベテラン藤井の左腕に勝利が託される。小松からの正確なパスが藤井に通り、最後は冷静にループシュートを決め、７－６で日本待望の勝利を得た。

【女子】

▼予選リーグＦ組

日　本　1（13－6、9－13、6－7）2　タ　イ

［戦評］アジアビーチゲームズ初戦。先制は木下のポストシュートで日本。前半開始５分、２対４でタイにリードを許すが、笹田がペナルティシュートやカットインで点を重ね６対４。その後もゴールキーパー木澤の好守やキーパーオフェンスの荒川の２点シュートにより日本チームの流れのまま13対６で終了した。後半、タイはキーパーオフェンスやポストを使ったプレーで連取し、２－８と点差を広げる。日本は交代のミスやシュートミスにより、なかなか点が取れず、DFも連携が取れない。ラスト５分でタイムアウトを取り、７対10まで追い上げるが、流れに乗りきれず９対13で終了した。第３セットは、６対７でタイが取り、結局、日本１－２タイで終了した。

日　本　1（10－18、10－8、2－5）2　中　国

［戦評］第１セット、両チームワンポイントシュートを確実に決め一進一退の攻防。日本は、３分に望月が６ｍＴを決め４対２と第１セット初のリードを奪う。しかし、中国の高さを生かした、スカイプレーを止められず、得点を重ねられ、日本も、木下、荒川のシュートで反撃するも及ばず10対18で終了。第２セット、開始20秒、笹田のシュートで先制。日本はディフェンスシステムを変え、GKオフェンスとポストのスカイプレーを完全に抑え、中国はワンポイントシュートでの得点のみ。日本は、木下・梶尾のピルエットシュートで加点し、６分には６対５とリード。その後、沼田・望月の固いディフェンスにより、10対８で終了。セット数１－１により、第３セット、シュートを確実に決めた中国が２－５で勝ち、セット数１－２で日本は初勝利を逃した。

日　本　2（14－6、18－9）0　ヨルダン

［戦評］開始30秒、望月の６ｍＴで先制。ヨルダンもツーポイントで得点を重ねる。日本は、木下のポストシュート・木澤の好守からのGKシュート、笹田のカットインシュートが連続して決まり、7分には、10対４と日本がリードし、最後は14対６で第１セット終了。第２セット、日本はジャンプボールから、セットプレーで木下のポストシュートが決まると、川田・望月のナイスディフェンスから木澤のGKシュートが決まり、試合の流れを一気に引き寄せる。ヨルダンも意地を見せ、３連続得点で、６分には11対８とする。しかし、日本は、笹田の速いパス回しからの木下のポストシュートと、木澤のGKシュートが決まり、18対９で終了。セット数、２－０で初勝利をおさめた。

日　本　2（13－11、12－9）0　ホンコンチャイナ

［戦評］試合開始早々、日本が６ｍＴを得るも、シュートが決まらず、逆に香港が先制。日本は、沼田の好ディフェンスから笹田が連続得点決め、逆転、５分には、７対２とリード。香港は、たまらずタイムアウト。その後、香港は、ピルエットシュートを狙うも、木澤の好守に阻まれ、13対11で終了。第２セット、荒川の連続得点で、先制すると、沼田・笹田・木下・梶尾のシュートが決まり、６分には、日本が９対２とリード。香港もピルエットシュートを決め、得点を重ねるが、日本は確実にワンポイントを決め突き放し、12対９で終了。セット数、２－０で日本が２勝目をあげた。

▼５位決定戦

日　本　0（13－16、15－16）2　ベトナム

［戦評］第１セット、日本はミスが続き、開始２分、１対５とベトナムがリード。荒川・笹田のワンポイントシュートで得点を重ねるも、ベトナムもGKオフェンスやピルエットシュートで加点し、点差は縮まらない。その後、日本は、梶尾・木下のピルエットシュート・望月の６ｍＴなどで得点するが逆転できず13対16で終了。第２セット、日本が荒川のGKオフェンスシュートで先制。さらに川田・望月の好守から得点につなげ、５分には、８対５とリード。しかしベトナムはピルエットシュートを連続して決め、11対15と逆転。日本は梶尾のピルエットで13対15とする。木澤の好セーブから残り18秒日本ボール。梶尾の華麗なピルエットシュートがベトナムゴールを揺らし、同点。ゴールデンゴールかと思った残り１秒、ベトナムに得点を許し、15対16で終了。

第16回日・韓・中ジュニア交流競技会ハンドボール競技

高体連ハンドボール専門部部長　氷海正行

1．目的

アジア近隣諸国との青少年スポーツ交流を促進し、これを通じて相互理解を深め、競技力向上に資するため、韓国、中国の競技者を日本に招聘し競技会を開催する。（陸上・サッカー・テニス・バレー・バスケ・ウェイト・ハンド・ソフトテニス・卓球・バドミントン・ラグビー）

2．参加国　①日本　②韓国　③中国　④千葉県(開催地)

3．派遣期間

平成20年8月24日（火）～8月28日（木）5日間
競技期日　8月25日（月）～27日（水）

4．競技会場　千葉県千葉市「千葉ポートアリーナ」

5．試合結果

男子

	日本	韓国	千葉	中国
日本	＼	35：35 △	38：31 ○	43：25 ○
韓国	35：35 △	＼	41：31 ○	45：32 ○
千葉	31：38 ●	31：41 ●	＼	39：34 ○
中国	25：43 ●	32：45 ●	34：39 ●	＼

女子

	韓国	日本	中国	千葉
韓国	＼	31：28 ○	30：24 ○	35：25 ○
日本	28：31 ●	＼	36：27 ○	39：14 ○
中国	24：30 ●	27：36 ●	＼	29：26 ○
千葉	25：35 ●	14：39 ●	26：29 ●	＼

6．日本選手団

団長氷海正行（全国高体連部長）男子監督森安昭雄（全国高体連委員長）男子コーチ大房重則（全国高体連強化委員）女子監督河先修（全国高体連強化委員長）女子コーチ　繁田順子（全国高体連強化委員）**男子選手：**GK1 木村昌丈（藤代紫水）12 大鶴峻介（大分雄城台）CP2 平子卓人（北陸）3 池上直輝（北陸）4 藤江恭輔（北陸）5 会田亮祐（藤代紫水）6 池辺大貴（藤代紫水）7 元木博紀（藤代紫水）8 牧山仁志（法政二）9 高田剣（明星）10 末木賢志（駿台甲府）11 植垣健人（大阪体大浪商）13 久保龍太郎（香川中央）14 伊東裕希（大分雄城台）**女子選手：**GK1 佐々木莉紗（不来方）12 上田美結（四天王寺）CP2 乾彩友美（洛北）3 陣野瞳（栃木商業）4 河田知美（高松商業）5 平川愛里（大分鶴崎）6 原希美（長崎学園）7 横山香夢（文大杉並）8 高山綾乃（洛北）9 平岡朋子（四天王寺）10 竹中梨沙（洛北）11 川俣ゆかり（蒲生）13 松尾祐依（福岡女子商業）14 加須屋朝緋（市立小松）

7．試合内容

日本：韓国（男子）…日本のディフェンスは6－0で韓国のフェイント攻撃に対応するよう、間を狭くするという策を講じた。攻撃は韓国のアグレッシブに前に出てくるディフェンスに苦戦はしたものの、速攻で得点を重ねた。

日本：中国（男子）…日本のディフェンスは6－0で中国の長身選手の攻撃に対応できるよう前を厚く守った。中国の長身選手のスタミナ不足に乗じて、速攻による得点を重ねた。

日本：千葉（男子）…日本のディフェンスは6－0で千葉の攻撃に対応できるよう、守った。攻撃は、ミドルシュートと速攻により巧みに得点を重ねた。

日本：韓国（女子）…日本のディフェンスは基本的には6－0で守り、短時間に5－1でパスのリズムを崩すように守ったが、韓国のスピードあるフェイント攻撃に苦戦した。攻撃は韓国のディフェンス6－0に対して、ミドルシュートと速攻を使い分け得点を重ねた。

日本：中国（女子）…日本のディフェンスは基本的には5－1で守り、長身選手のパスのリズムを崩す策をとった。攻撃は中国の長身選手のスタミナ不足に乗じて、速攻による得点を重ねた。

日本：千葉（女子）…日本のディフェンスは基本的には6－0で守り、千葉のリズムを崩す守りが功を奏した。攻撃は、ミドルシュートと速攻により巧みに得点を重ねた。

8．交流を終えて

16回目になる日・韓・中ジュニア交流競技会は、千葉県、千葉市で8月24日～28日まで行われました。今大会で、男子は前回に引き続き優勝、女子は2位という成績を収めることができたことを、とても誇りに思います。そして、今回も男女ともにチーム一丸となって韓国に勝利することを目指して戦うことができました。選抜チームのためコミュニケーションの時間もほとんどなかったにもかかわらず、各選手は自分の役割を自覚し、精神的な迷いもなく、チーム一丸となって戦うことができました。このことは男女とも、監督・コーチの選手に対する指導が明確で、選手との意思疎通が見事に図られていたからです。

日本の男女チームは各選手を選考会において選抜しており、チームバランスもよく、すばらしい選抜チームでした。

全試合を通じて、スタミナと速攻の技術は日本が優れていました。また、前回より中国が男女ともに技術（フェイント攻撃）の向上が見られました。

最後になりますが、この交流会が無事に終了できましたことを、男女選抜チームの監督・コーチ・選手の皆さんに感謝します。そして、各選手のチーム監督並びに各関係機関の皆様に心より感謝申し上げます（平成21年開催は韓国の予定です）。

【男子】

法政大学第二高等学校　牧山仁志

チームが初めて練習を行ったのは、インターハイ直後の８月３日からの３日間の合宿でした。つい先日まではお互いが敵同士だっただけに、少し不安もありました。しかし、メンバーが集まるにつれて自然と会話も増え、お互いが一つのチームとしての実感を持つようになりました。また、埼玉県での合宿だったため、練習は浦和学院の選手や国体少年男子の選手に協力していただき、そのおかげで、大変内容の濃い練習を行うことができました。

合宿から約３週間後の８月 24 日、チームがもう一度集まり、翌日から千葉県選抜、中国選抜、韓国選抜と試合を行いました。千葉県選抜との試合の後、合わなかったプレーや次の対戦相手の中国への対策をキャプテンを中心に話し合いました。そこでは、各選手の考えや発想が出され、自分には参考になることもたくさんあり、とてもいい刺激になりました。

試合の結果は千葉、中国に勝ち、韓国とは引き分けましたが、得失点差で韓国に上回り日本が一位でした。優勝がかかった韓国戦ではけが人が出るアクシデントもありましたが、チーム一丸となって最後まで粘ることができました。

また、試合会場や宿泊するホテルでは、お互いちぐはぐな英語やジェスチャーで中国と韓国の選手と交流することができました。普段の生活では外国の人と話す機会はめったにないので、これも貴重な経験でした。

日中韓ジュニア交流競技会では、ハンドボールを通してチームメイトからも対戦したチームからも多くのことを学ぶことができ、さらに、国際試合の緊張感も知ることができました。最後に、多くのことを経験させていただいたスタッフの先生方と、チームメイトには本当に感謝しています。ありがとうございました。





2点とも　写真提供：スポーツ・イベント社

【女子】

鹿児島県立蒲生高等学校　川俣ゆかり

私は、『第 16 回日・韓・中 Jr 交流競技会』のハンドボール競技にキャプテンとして参加させていただきました。総合開会式は、異なる競技の選手団も集まり盛大に開催されました。

ハンドボール競技は、日本・韓国・中国・千葉の４チームでの総当たり戦でした。その３試合の中で印象に残っているのは韓国戦です。

「日本」「韓国」は共に２勝をあげていて、優勝をかけての試合でした。今大会での最終戦だったので、絶対に勝ちたいと思っていました。しかし、試合開始から私たち日本チームは足が全く動かず、相手にリードを許してしまい、前半を７点差で折り返しました。後半は、やっと私たちのプレーを発揮することができ、徐々に点差は縮まったもののタイムアップ。結局、３点差で韓国に敗れました。私は、コートにたつ時間も短く、しかも、前半の立ち上がりにチームを盛り上げていけなかったことが一番の反省点です。キャプテンとしての責務が果たせませんでした。

今回、「韓国」や「中国」と戦って、大切なことは基本的なパスキャッチミス、ノーマークシュートミスをどれだけ少なくできるかが勝敗の鍵を握るということです。私たちは練習する時間が短く、なかなかコンビを合わせる時間がなかったのですが、その中で、「コミュニケーション」をとれるようになることも大切だと思いました。また、「韓国」は全てにおいて速かったと感じました。あのスピードに対応できるようになりたいです。

最後に、この大会に参加することができて良かったです。キャプテンとしての力も、技術も精神面もまだまだであるとわかりました。私たちの世代でアジアの強豪と戦えたことも収穫です。この経験を無駄にすることなく、これからのハンドボール人生に活かしていこうと思います。



日本・韓国選手団



日本・中国選手団

～船出した“英才教育”～

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw フリースロー

日本協会の新事業「JHAジュニアアカデミー」がスタートした。

能力に優れ、将来、日本代表として活躍できる選手の育成を目指す“英才教育プロジェクト”だ。遠く離れたオリンピックの舞台への復帰を視野に入れての目的もあるが、現在の「世界」は、強化だけでは通用しない時代になっている。社会をリードしていける真の世界基準の人材育成が求められる時代である。

そうしたことからも今回のプロジェクトは大きな意味がある。当面は１週間単位のプログラムで、ナショナルトレーニングセンターでの活動のようだが、将来はもっと大規模な構想もあるようだ。

カギは人材をどのように集めるかだろう。９年前に始まったナショナル・トレーニングシステム（NTS）をさらに強力に推進し、大型で能力の優れたプレーヤーの発掘に当たることだろう。

こうしたプロジェクトは、３年前から日本サッカー協会が福島にあるＪヴィレッジで「JFAアカデミー」として実施し、来年度からは熊本県宇城市でも開校する。

福島では中高一貫教育で世界に通用する選手育成を目指している。その指導内容は多岐にわたる。プログラムをのぞいて見ると、サッカーの技術指導だけでなく､英会話、マナー講習、奉仕活動から、驚くべきは農家の協力を得て米づくり体験まである。

今年度の入校希望者（中学１年生）は男子が685人、女子が140人にのぼった。実に男子は45.7倍、女子は23.3倍。サッカー人気だろうが、実にうらやましい数字である。

今回の「JHAジュニアアカデミー」も、将来的にはサッカーと同様に、優秀な人材を１カ所に集め、近くの学校に通いながら“英才教育”につなげようというものだ。

今や国際舞台での勝負にはトップの強化だけでは通用しない。各年代別カテゴリーでの社会性、国際性を含めた強化、育成が欠かせなくなってきている。

長い目で見守ることが重要で、じっくり腰をすえた育成を目指して取り組むことだろう。動き出した新事業の成功がハンドボール界の命運を握っていると言ってもいいかも知れない。

そのためには、今回のスタートをもっと多くのメディアにアピールすることは欠かせないのはもとより、協会ホームページでも参加者や指導陣を紹介してもいいのではなかろうか。力強い歩みを期待したい。

2008 NTS 関東ブロックトレーニング

平成20年度第9回ナショナルトレーニングシステム（NTS）ブロックトレーニングがスタートしており、今回は、関東ブロックトレーニング（8月30日、31日：ナショナルトレーニングセンター）を報告いたします。

NTSは、「若年層の運動能力の高い意欲のあるプレーヤーを早期に発掘し、将来、世界で活躍出来る可能性を持ったクリエイティブな日本代表プレーヤーに育成する。統一された指導方法に基づいた一貫指導を実施し、指導者レベル向上を図る。」を目的としております。

30日は、開会に当り関東協会佐分会長よりご挨拶があり、中学生男女50名弱と指導者30名程度、開催スタッフなど合わせ総勢100名規模で開始されました。その後は、コートプレイヤー、キーパーに分かれてのウォーミングアップに始まり、オフェンストレーニング、ディフェンストレーニングと参加の選手は気を抜く間もなく、展開されていきました。NTCは今年の1月から使用が開始され、専用コート2面と最新鋭の設備を有しており、最高の場所で最高のパフォーマンスを発揮できるように、指導にも気が配られていました。全国9ブロックで開催されているブロックトレーニングは、正月明けにはセンタートレーニングを迎えることになり将来のナショナルプレイヤーが生まれる事を期待しています。


開会のご挨拶


担当インストラクターの皆さん


参加した指導者の皆さん


ウォーミングアップから


コートプレイヤーのアップ


ゴールキーパーのストレッチ


女子：実践指導から


男子：実践指導から

スーパープレーを見せ
スポーツ選手たちを支



ES-530

総合刺激装置ES-530
管理医療機器（特定保守管理医療機器）
医療機器認証番号 219AABZX00116000

9種類の電気刺激モードを搭載した電流刺激装置

立体動態波モードをはじめ、9種類の多彩な電気刺激モードを搭載。新開発のマウス型導子や、3極スティック導子など豊富なアクセサリーも標準装備。カラー液晶や新型導子で理想的な操作性を実現しました。



1ヘッド2周波 超音波治療器

US-750

イトー US-750
管理医療機器（特定保守管理医療機器）
医療機器承認番号 21700BZZ00203

高精度のBNR・ERAを実現。1ヘッドで2周波に対応した超音波治療器

立体加温効果と高速度ミクロマッサージ作用で、効率的に治療。超音波治療の効果・安全性に重要なプローブのBNR（ビーム不均等率）とERA（有効照射面積）において、レベルの高い精度を実現しました。



携帯型電流刺激治療器

Trio 300

トリオ300
管理医療機器（特定保守管理医療機器）
医療機器承認番号 20900BZZ00935

3つの電気刺激モードを搭載した、超小型サイズ低周波治療器

3つの電気刺激モード（TENS、EMS、MCRモード）を搭載した、超小型サイズ（幅：6.9cm、高さ：11.5cm）の低周波治療器。便利な個別プログラミングとメモリー機能も搭載し、幅広い治療を可能にします。

る

たい。

つねに最高のコンディションを保ち、ケガをした場合はより早くベストな状態へ回復することが彼らの大きな課題です。医療の分野だけではなく、こうしたスポーツ選手をサポートするために、私達の物理療法機器が活躍しています。日本を代表する選手をはじめ、さまざまなシーンで活躍する選手を幅広くサポートすること。私達は医療とスポーツの両分野で培った経験を活かして、これからもスポーツの世界を積極的に応援していきます。



写真提供：(財)日本ハンドボール協会





イトー スポーツプロジェクト
ITO Sports Project
www.sports.itolator.co.jp





皆さまとともに90年以上、
伊藤超短波はこれからもアスリートを応援していきます。

お問い合せ等はこちらまで。お気軽にお問い合せください。

製　造
販売元



伊藤超短波株式会社
東京都練馬区豊玉南3-3-3　http://www.itolator.co.jp/

メディカル事業部
本　社：〒113-0001　東京都文京区白山1-23-15
TEL. 03(3812)1216(代)・FAX. 03(3814)4587

営業所：	盛岡	TEL. 019(634)1401	FAX. 019(634)1341
	仙台	TEL. 022(306)7667	FAX. 022(306)7688
	東東京	TEL. 03(3812)1217	FAX. 03(3814)4587
	西東京	TEL. 03(3812)1218	FAX. 03(3814)4587
	名古屋	TEL. 052(701)4515	FAX. 052(701)6905
	東大阪	TEL. 072(242)1041	FAX. 072(242)1040
	西大阪	TEL. 072(242)1043	FAX. 072(242)1040
	広島	TEL. 082(506)1421	FAX. 082(263)9070
	福岡	TEL. 092(573)6053	FAX. 092(573)0218
	デンタル部門	TEL. 03(3812)4151	FAX. 03(3814)4587

平成20年３月15日・16日の両日、駒澤大学において、第６回ハンドボールコーチング研究会が開催されました。本研究会は、全国の指導者が自身の経験や・知見を持ち寄り、実際の現場で有用な情報を共有する機会として位置付けられています。
研究会の発表内容については、本誌で連載報告していただく運びとなりました。
今月は花岡美智子さん（東海大学）の発表内容「ハンドボールにおける傷害発生要因」を報告させていただきます。なお、他の発表については次号以降で報告を連載いたします。

(財)日本ハンドボール協会指導委員会研究部会　舎利弗　学（学校法人福島高等学校）

ハンドボールにおける傷害発生原因

―環境が傷害発生に与えるリスクについて―

花岡美智子（東海大学）

キーワード：傷害発生、危険因子、リスク管理

1．研究目的

スポーツ現場において傷害が発生することは珍しいことではない。スポーツ選手は怪我をした後、期間の大小はあるものの治療、リハビリを行い現場への復帰を目指すことになる。近年ではスポーツ医科学の進歩や、スポーツケアに対する情報の共有、意識の変化により傷害発生後に行われる手術や治療、リハビリテーションは著しく発展し復帰までに要する期間は短縮している傾向にある。

しかし、その一方で傷害発生件数自体は大きな変化がないまま現在に至っているように思われる。傷害発生後の対処はもちろん重要であるが、それと同等、あるいはそれ以上に傷害発生件数を減少させることが、多くのスポーツ現場に求められているのではないだろうか。

そこで本研究では傷害が発生する要因の一つとしてあげられる環境に着目し、傷害発生の危険性を探るとともに、環境に対する有効な対応策を模索することを目的とした。

2．方法

関東学生リーグ一部に所属する大学女子ハンドボール選手を対象に、傷害発生に関する調査を行った。調査内容は、下肢に発生した打撲を除く外傷の受傷部位、受傷機転、受傷状況、受傷場所である。対象期間は1999年４月～2004年３月、2006年４月～2008年２月の約７年間であり、ハンドボール部の活動中に発生した全ての外傷を対象とした。

3．結果

調査期間内において、下肢に発生した外傷は打撲を除いて11種類に分類され111件の外傷がみられた。中でも最も多かったのは、足関節捻挫（外反捻挫も含む）で52件の症例が見られた。次いで、大腿四頭筋肉離れ14件、前十字靭帯損傷９件、膝関節過伸展９件であった。（表１）

受傷時の状況としては練習時が111件中72件（64.9％）と最も多く、次いで試合時の22件（19.8％）であった。（表２）

受傷場所に関しては、屋外時の傷害発生が65件（58.6％）、屋内時の傷害発生が42件（37.8％）であった。（表２）

表１　下肢における外傷発生件数（症例別）

症例名	合計（件）
足関節捻挫（内反捻挫）	52
大腿四頭筋肉離れ	14
前十字靭帯損傷	9
膝関節過伸展	9
内側側副靭帯損傷	6
ハムストリング肉離れ	6
足部捻挫	5
膝関節捻挫	5
その他	5
合計	111

表２　下肢における傷害発生状況

	発生件数	割合（%）
試合時	22	19.8
練習時	72	64.9
合宿時	13	11.7
その他	4	3.6
合計	111	100.0

表３　下肢における傷害発生場所

	フロアータイプ	発生件数		発生割合（%）
屋内	体育館		42	37.8
屋外	タータン	(43)		(38.7)
	土	(3)		(2.7)
	人工芝	(19)		(17.1)
			65	58.6
その他			4	3.6
合計			111	100.0

4. 考察

外傷が発生した症例に関しては、足関節捻挫が最も多く、これはこれまで発表されている多くの先行研究[1]と同様の結果を示している。足関節捻挫が起こった場所としては、屋内（体育館）が17件に対し屋外が33件であった。受傷機転としては、ジャンプの着地時が多く、その際「人の足の上にのった」という接触を伴って受傷するケースが多く見られた。また、屋内（体育館）で受傷した場合の受傷機転としては、攻防がチェンジする場合やフェイント動作の切返し動作に反応した際に接触を伴わず受傷するケースが屋外に比べて比較的多く見られた。

膝関節の外傷に関しては体育館での活動時に多く発生している。膝関節の靭帯損傷に着目すると、屋内での受傷が17件であるのに対し、屋外が12件であった。受傷機転としてはジャンプシュートの着地時や、方向変換時に接触を伴うことなく受傷するケースがほとんどで、前十字靭帯損傷に関しては、今回発生した9件のうち7件が非接触による受傷であり、屋内で発生した前十字靭帯損傷は全てが非接触型によるものであった。

Myklebust[2]らは、ノルウェートップリーグのハンドボール選手に対し前十字靭帯損傷の発生状況を調査し、発生した傷害の55％がシューズとサーフェイス間の摩擦に原因があると報告している。またOlsenら[3]は、接地面とシューズ間での摩擦係数が高い場合、下肢の外傷受傷率が増すことを報告している。つまりストップや方向変換時には強い摩擦が働き、急激な動きが可能になるほど、捻り運動が生じる膝関節に強い力が加わることになる。捻り動作に耐えるためには、大腿四頭筋、ハムストリングスに代表される膝関節周囲の筋力によって動的な安定性を構築していく必要がある。しかし女性の場合、男性に比べて筋量が少なく筋力が弱いという内的要因が影響し、動的安定性が乏しくなるというリスクファクターが存在する。摩擦係数の高いフロアにおいて男性と同じようにストップやターンなどハンドボールに必要な動作を行うことは膝関節の静的安定性の役割を担う靭帯への負担を増加させているのかもしれない。

ただし、今回対象となったチームは日常の練習を屋外で行っており、体育館で活動を行うことは、試合や合宿時を除けばごくわずかである。つまり、今回の調査では屋内（体育館）での活動は、試合時や合宿時といった特別な状況下が多かった。試合時の傷害発生率は練習時と比較しても非常に高いことはこれまでの先行研究[3]により述べられており、傷害発生要因として環境、特に屋内外にのみに限定することは不可能である。



しかし解剖的構造として捻り動作が行われにくい足関節においては、屋外の練習時においても多くの発生件数が認められている。このことから、捻り動作を行う膝関節の傷害においては、試合や合宿などの非日常的な状況において発生しやすいという要因はあるとしても、フロアとシューズの摩擦力が傷害発生に大きな影響を与えているのではないかと思われる。経験的にも練習場所や練習環境が変化することにより、運動時に足関節をつまらせたり、方向変換時に筋肉に強い負荷が加わり、下腿に張りや疲労を訴える選手は多い。

傷害予防の側面からは、これまでも動作分析により下腿に負担がかかりすぎないためのフォームや筋力トレーニング法の提案が行われている。今後はそれに加えて、シューズやフロアの素材に対しても気を配り、筋力や動きの習熟度に見合った用具を選択していくことで、傷害発生の危険因子を軽減することができるのではないかと思われる。

【参考文献】

1）Fagerli UM, Lereim I, Sahlin Y, (1990), Injuries in handball players., Tidsskr Nor Laegeforen. 110(4):475-8.

2）Myklebust G ら (1997). Registration of cruciate ligament injuries Norwegian top level team handball. Scand J Med Sci Sports. 7(5):289-92.

3）Olsen OE, Myklebust G ら (2003), Relationship between floor type and risk of ACL injury in team handball. Scand J Med Sci Sports. 13(2):299-304.

「第３回アジア男子ユース選手権大会兼 2009年世界選手権大会予選」のＴＤ参加所見

―（3rd Asian Men's Youth Championship）― 11-21Jul 2008 Anman /JORDAN

IHF&AHF/MC　西山 逸成

１．大会概況

第３回アジア男子ユース（U-19）は日本を含む11ヶ国・２グループで実施された。

世界選手権大会（2009）には、本大会参加チームから上位２チームの参加が予定されている。

（1）参加国；２ヶグループ区分（最終結果）

① Group（A）	（順位）	② Group（B）	（順位）
1．QAT	2位	1．IRI	3位
2．KOR	5位	2．JOR	9位
3．IRQ	10位	3．JPN	7位
4．IND	11位	4．BRN	4位
5．KUW	1位	5．KSA	6位
6．TPE	8位		

（2）参加TD（テクニカル・デレゲート）

Chairman；

1．Mr.Alireza RAHIMI（IRI）　Vice President

Member；

2．Mr.Amin Al-Barwani（OMN）　Council Menber
3．Mr.Nasr Hilal（KSA）　CCM / President
4．Dr.Sari Hamdan（JOR）　MKC / President
5．Dr.Issei Nishiyama（JPN）　M C / President
6．Mr.Khalaf Al-Enenzi（KUW）　PRC / Member
7．Mr Zohair Samha（SYR）　PRC / Member
8．Mr Yotsapol Sukumolnan（THA）　CPP/Member
9．Ms.Farida Al-Seibani（OMN）　CPP/Member
10．Mr.Ehab Noor（EGY）　Executive Secretary

（3）参加Referees；＊日本にも参加依頼があったが、不参加であった。

1．SAMI KHALAF/ AlLIABDUL HUSSEIN（IHF）（KUW）
2．TALAL QASQAS / ZAIN AL-ABEDIN BANIHANI Former IHF（JOR）
3．MOHAMMAD AL-SAADI / FAHAD AL-KAABI（AHF）（QAT）
4．NASSER TANJI / YAHYA AL-AAYDI（AHF）（SYR）
5．KASSEM MOUKACHAR / MOHAMMAD ZIAD MANSOUR（AHF）（LIB）
6．HAMID TAGHAVI / ALIREZA MOUSAVIAN（AHF）（IRI）
7．KITISAK KHALANGDIT / CHATCHAI SANGSUKEELUX（AHF）（THA）
8．ISMAIL SALEM / FADHEL GHOLOOM（AHF）（UAE）

（4）競技結果― 11/JUL ～ 21/JUL（入手できた試合記録を集計した。）（右頁表）

２．後所見

1）全般所見として本大会（調査21試合）では「追放」は見られなかったが「２分間退場」は大会を通じてIRIチームの11選手から最多のKUWチーム31選手で平均では、18名に及ぶ発生状態であった。

JPNチームについては、対IRI、BAREN 、JOR、TPEの４試合を集計したが、平均５名程度であった。

2）競技力水準としては、大会の成績順位から類推してみると、上位はKUW・QAT・IRI・BRN西アジア勢が占めてしまった。

日曜・試合	組み合・得点	REF	TD	G	P	W	2'	D	E
11/FRI / 1	QAT 45/25 IND	THA	Khalaf/Farida	45/25	1/0	3/3	4/5	0/0	0/0
2	IRI 35/31 BRN	SYR	Samha/Yatsapol	35/31	5/6	3/3	4/6	0/1	0/0
3	IRQ35/31 KUW	IRI	Samha/Amin	23/35	4/1	2/3	2/5	0/0	0/0
4	JPN33/34 KSA	UAE	Khalaf/Yatsapol	33/34	5/1	3/4	4/6	0/1	0/0
5	KOR44/30TPE	JOR	Sampha/Nishiyama	43/30	7/2	3/3	3/5	0/0	0/0
12/Sat/ 6	TPE30/24IRK	LIB	Khalaf/Amin						
7	KUW25/23QA	SYR	Sampha/Yatsapol						
8	IND19/60KOR	THA	Khalaf/Farida						
9	JOR22/25KSA	KUW	Sampha/Yatsapol						
14/Mon/10	QAT38/18TPE	IRI	Sampha/Yatsapol	34/28	5/4	2/3	5/2	0/0	0/0
11	IRI34/28JPN	LIB	Khalaf/Nasr						
12	IND25/48KUW	JOR	Sampha/Nishiyama						
13	JOR27/26BRN	UAE	Sampha/Yatsapol						
14	KOR33/23IRQ	QAT	Khalaf/Amin	33/22	3/1	3/3	4/1	0/0	0/0
15Tue/ 15	IRI39/32KSA	SYR	Khalaf/Yatsapol	39/32	4/3	3/3	9/5	0/1	0/0
16	JPN32/33BRN	QAT	Sampha/Nasr	32/33	3/1	3/3	2/2	0/0	0/0
16Wed/17	IRQ19/36QAT	THA	Sampha/Yatsapol						
18	KOR30/32KUW	IRI	Sampha/Yatsapol	30/32	2/6	3/3	4/2	1/0	0/0
19	TPE37/30IND	QAT	Farida/Nishiyama	37/30	3/5	3/3	5/1	1/0	0/0
20	JOR21/26JPN	KUW	Khalaf/Amin	21/26	5/6	2/3	8/4	0/0	0/0
17Thu/21	BRN30/27KSA	JOR	Sampha/Yatsapol						
22	QAT30/31KOR	SYR	Sampha/Nasr						
23	KUW37/33TPE	LIB	Sampha/Nishiyama	27/33	5/4	2/3	8/4	0/0	0/0
24	IRI27/22JOR	QAT	Khalaf/Amin						
25	IRQ32/30IND	THA	Khalaf/Nishiyama	32/30	3/4	3/3	5/8	0/0	0/0
19Sat/26	KUW33/29BRN	IRI	Nasr/Sampha	33/29	5/5	2/3	6/8	1/0	0/0
27	IRI27/28QAT	UAE	Farida/Sampha	27/28	4/2	3/2	2/6	1/0	0/0
20Sun/28	IRQ22/31JOR	THA	Yostapol/Sampha	22/31	2/5	3/3	6/5	2/0	0/0
29	TPE30/31JPN	LIB	Farida/Sampha	30/31	3/2	3/2	5/8	0/0	0/0
30	KOR44/37KSA	IRI	Yostapol/Sampha	44/37	4/4	3/3	3/7	0/0	0/0
21Mon/31	BRN25/31IRI	YOR	Yotsapol/Sampha	25/31	4/4	3/3	4/5	0/0	0/0
32	KUW31/26QAT	SYR	Nasr/Sampha	31/26	1/6	3/3	8/3	0/0	0/0

注；G：Gole（得点）、P：Penalty（７mスロー）、W：Warning（警告）、
２：2min Suspension（２分間退場）、D：Disqualification（失格）、E：Expulsion（追放）



YORDAN Refuree で、TD グループのエスコート。
JPN-Shishiba 団長、筆者



Thailand TD Mr Yotsapol Sukumolnan
AHF/ 事務局　Mr.Ehab Noor（EGY に帰国予定）

３）大会の管理状況は、IHF の宣言した IHF の管理下での大会とは大きく変化し、IHF からは TD もレフリーの誰も管理者として派遣されなかった。

４）ドーピング・コントロールも、IHF から IHF&AHF/MC の西山に対し、実施に関する連絡は何もなかった。本大会のテクニカルミーティングの直前に、AHF/Executive Director Dr.Ahmed Abu Al-Lail から西山に対し、本大会の Doping Control は Jordan 組織委員会の事情で実施できないと通告された。

（＊決定権者は IHF/MC&AHF/MC であるべきことなのに）

５）Technical Delegate（技術委員）・Referee（審判員）の AHF からの派遣依頼は、基本的には受けることが役員としての第１の役目と、AHF スタッフが評しているように努める事が望ましい…筆者の長年の役務経験から不充分の感を抱いている。派遣要請に対応できる役員の派遣こそ AHF からの情報の収集や意見の公式聴取も出来るといえる。

これらの条件を満たす AHF/IHF への役員相互からの情報交換結果から、JHA の望ましき国際対策が生まれてくることを切に望んで本報告を終ります。

スコアールーム

第63回国民体育大会

開催期日：2008年10月3日（金）～7日（火）
会　　場：大分市・県立総合体育館ほか

【成年男子】

▼1回戦

埼玉県 40（18－7、22－8）15 香川県
三重県 33（15－9、18－15）24 大分県
京都府 33（17－11、16－14）25 秋田県
佐賀県 40（21－12、19－12）24 神奈川県
愛知県 32（16－6、16－13）19 福井県
岩手県 28（14－14、14－11）25 奈良県
群馬県 37（17－15、20－17）32 北海道
広島県 44（23－9、21－13）22 熊本県

▼準々決勝

埼玉県 37（20－15、17－10）25 三重県
佐賀県 46（21－11、25－13）24 京都府
愛知県 32（16－6、16－12）18 岩手県
広島県 46（24－8、22－11）19 群馬県

▼準決勝

埼玉県 30（16－12、14－17）29 佐賀県
愛知県 24（11－9、13－11）20 広島県

▼3位決定戦

佐賀県 25（13－12、12－12）24 広島県

▼決　勝

埼玉県 28（12－13、16－11）24 愛知県

【成年女子】

▼1回戦

茨城県 31（12－4、19－12）16 香川県
三重県 37（17－8、20－7）15 福岡県
神奈川県 27（15－9、12－13）22 福島県

▼2回戦

茨城県 26（11－12、15－10）22 熊本県
宮城県 30（13－8、17－9）17 福井県
大阪府 26（13－12、13－8）20 愛知県
広島県 23（10－9、13－5）14 大分県
石川県 28（14－10、14－8）18 三重県
兵庫県 31（17－13、14－10）23 東京都
山口県 36（23－4、13－9）13 北海道
鹿児島県 34（16－6、18－6）12 神奈川県

▼準々決勝

茨城県 35（13－9、22－9）18 宮城県
広島県 26（17－11、9－10）21 大阪府
石川県 36（13－5、23－3）8 兵庫県
鹿児島県 45（20－7、25－5）12 山口県

▼準決勝

茨城県 30（14－13、16－10）23 広島県
石川県 22（11－12、11－6）18 鹿児島県

▼3位決定戦

鹿児島県 31（17－9、14－8）17 広島県

▼決　勝

石川県 31（14－16、17－13）29 茨城県

【少年男子】

▼1回戦

大阪府 38（19－17、19－18）35 千葉県
愛知県 31（13－9、18－12）21 鳥取県
京都府 38（21－11、17－15）26 北海道

▼2回戦

長崎県 29（14－16、15－11）27 大阪府
福島県 33（14－14、19－12）26 三重県
熊本県 36（17－19、19－11）30 山梨県
福井県 32（17－15、15－15）30 山口県
大分県 30（14－10、16－13）23 愛知県
神奈川県 30（12－18、18－11）29 香川県
秋田県 34（15－14、19－13）27 福岡県
茨城県 30（14－9、16－14）23 京都府

▼準々決勝

長崎県 36（18－4、18－15）19 福島県
熊本県 39（19－13、20－18）31 福井県
大分県 23（14－13、9－9）22 神奈川県
茨城県 33（16－21、17－11）32 秋田県

▼準決勝

長崎県 28（14－5、14－15）20 熊本県
茨城県 34（16－11、18－16）27 大分県

▼3位決定戦

大分県 34（15－12、19－10）22 熊本県

▼決　勝

長崎県 35（16－10、19－8）18 茨城県

【少年女子】

▼1回戦

京都府 34（21－9、13－8）17 栃木県
岐阜県 25（11－14、14－10）24 福井県
神奈川県 39（22－3、17－7）10 北海道
大分県 27（17－11、10－14）25 秋田県
大阪府 24（12－10、12－13）23 香川県
福岡県 18（8－9、10－8）17 岡山県
愛知県 24（13－8、11－8）16 宮城県
東京都 27（13－12、14－14）26 沖縄県

▼準々決勝

京都府 35（15－8、20－5）13 岐阜県
大分県 27（14－10、13－12）22 神奈川県
大阪府 29（13－8、16－12）20 福岡県
東京都 26（12－13、14－10）23 愛知県

▼準決勝

京都府 24（14－10、10－13）23 大分県
大阪府 23（10－8、13－11）19 東京都

▼3位決定戦

大分県 29（17－13、12－12）25 東京都

▼決　勝

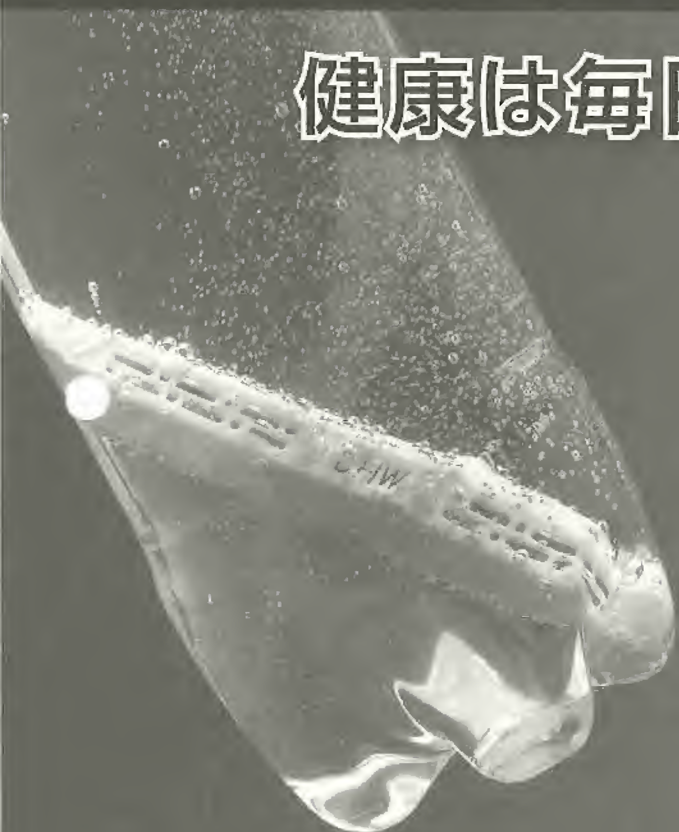
京都府 23（11－6、12－11）17 大阪府

ドクター・水素水 ——— 特殊セラミック＆エンバランスTスティック
簡易型水素発生「生」水器（水素発生ミネラルスティック）

豊富な水素が 水を変える！

フレンディアはJADMA（日本通信販売協会）の正会員です。
JADMA
社団法人日本通信販売協会会員

健康は毎日の飲料水から…


※本製品は改良のため予告なく仕様・デザインを変更する場合があります。


500mlのお水にドクター・水素水スティック１本を投入。
約120分後、水温21度における容存水素量0.48ppm。（当社測定値）

日本医学交流協会医療団
（ＮＰＯ認証 東京都）



当商品は認定を受けています。
http:/www.drp.ne.jp/で認定確認できます。

特許公開番号：2004-41949
韓国特許登録：529006号
米国特許番号：7189330

原材料／金属マグネシウム、天然石
サイズ／19×132mm



価格／1箱4本入り 13,440円(税込み)

株式会社フレンディア
〒107-0062東京都港区南青山5-10-13 デコパージュ南青山4F
TEL:03-5948-5011 FAX:03-5948-5263
フリーダイヤル 0120-372-132（みんなに いーみず）

株式会社フレンディアのウェブサイトを併せてご覧ください。

http://www.dr-suisosui.com

水の入ったペットボトルなどの容器に
スティックを入れるだけ。
2リットルの水道水にこれ１本！
しかも**6ヶ月と長持ち**です。
１日2リットル作ったとして、
たったの24円と経済的。



がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」10月入会・継続会員

【岩　手】佐久間　都歌　【茨　城】野村　正志、安田　博之　【埼　玉】寺尾　かほる、齋藤　和也
【千　葉】岡本　聡　【東　京】東尾　吉信、有田　美恵　【神奈川】永瀬　道晴、白井　章、桂　伸也
【富　山】若松　路夫　【静　岡】坂東　廣一　【愛　知】秋田　真理子、柿原　和幸、坪井　夕香
【岐　阜】永井　利佳　【大　阪】布目　明子、渡辺　明子、西端　美重子、中塚　冨佐子、小藪　律子、松尾　梢、影山　達也、影山　知子　【奈　良】田中　由紀、松本　真実　【岡　山】副島　敬子、福岡　誉之
【広　島】木下　しのぶ、塩屋　正子、有田　忍　【長　崎】藤山　聖子

【12月・1月の行事予定】

【会　議】

12月13日(土)　常務理事会（東京）

1月10日(土)　常務理事会（東京）

【大　会】

12月17日(水)～21日(日)（石川県・金沢市）
第60回全日本選手権大会

12月25日(木)～27日(土)（大阪府・堺市）
第17回 JOCジュニアオリンピックカップ

HANDBALL CONTENTS Dec.

（登録チームの購読料は登録料に含む）



(財)日本ハンドボール協会編　『ハンドボール』第四九六号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可

平成二十年十一月二十六日印刷 平成二十年十二月一日発行

東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表 〇三－三四八一－二三六一
振替 〇〇一二〇－七－一〇二九三

編集兼発行人 川上憲太

定価 年間三三〇〇円